

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】国語・国語総合			単位数	2	単位	履修学年	2	年
目 標	・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。 ・言語文化に対する関心を深め、読書に親しむ態度を身につける。								
使 用 教 材	【教科書】 新編国語総合（数研出版） 【副教材】 新訂国語図説四訂版（京都書房） 国語辞典第十一版（旺文社）／マナトレ（ベネッセ）								
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解				
	言葉に関心を持ち、適切に使ったり進んで読書したりしている。 分からないことや興味のあることについて進んで調べようとしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして筋道を立てて話すことができる。相手のことを考えて、わかりやすく話すことができる。相手の話を的確に聞き取って、要旨をとらえることができる。	進んで自分の意見や考えが表現できている。 自分の考えをまとめたり深めたりしながら、筋道立てて文章を書くことができる。相手や目的に応じた適切な文章表現ができている。	目的に応じてさまざまな文章を的確に読み取ることができる。 積極的に文章を読むことに親しみ、自分の考えを深めている。	音声、文法、表記、語句、漢字等を理解して、身につけている。 作品の時代背景や文化等を正確に理解している。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」は、日々の授業への取り組みを中心に、「書く能力」「読む能力」「知識・理解」は、定期考査や基礎力診断テストを中心に提出物の状況や小テストへの取り組み等を総合的に判断して評価する。また、授業に取り組む姿勢や態度も含め、総合的に判断する。								
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い					
1 学期	評論 ものづくり 古文または漢文より数篇 短歌と俳句 俳句			・文章の内容を叙述に応じて的確に読み取る。 ・言語文化の特質に気づき、伝統的な言語文化について理解する。 ・訓読のきまりについて理解する。 ・語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。 ・国語における表現の特色について理解する。 ・文章の語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。					
2 学期	古文 徒然草 小説 清兵衛と瓢箪または沖縄の手記から 評論より数編			・文章に描かれた心情を表現に即して読み味わう。 ・文語のきまりや語句の意味を理解する。 ・時代背景を知り、そこから心情を適切に読み取る。 ・語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。 ・文章の内容を叙述に応じて的確に読み取る。					
3 学期	古文より数編 漢文より数編			・文章に描かれた心情を表現に即して読み味わう。 ・言語文化の特質に気づき、伝統的な言語文化について理解する。 ・訓読のきまりについて理解する。					
学 習 上 の 留 意 点									

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】地理歴史・世界史A		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連づけながら理解する。 ・現代の時事問題と歴史的背景との関連を結びつけて考える力をつける。							
使 用 教 材	【教科書】『明解 世界史A』（帝国書院）							
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解				
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できる。	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけているとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。				
評 価 方 法	「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」について、到達目標との整合性を考えて評価します。 授業を大切にすることと提出物についても評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	世界史へのいざない 自然環境と歴史 1 1部 世界の一体化と日本 ・前近代の諸文明 東アジア、西アジア、北アフリカ			日本史と世界史のつながりに関わる適切な主題を設定・考察することで地理と歴史への関心高め、世界史学習の意義に気づかせる。 ・中国王朝の変遷を理解し、その政治・経済・文化が日本に与えた影響を理解する。 ・降水量と社会や経済の関係、農耕民と遊牧民の価値観の違いを自然環境から考察する。 ・イスラーム王朝の変遷とイスラーム教を軸とした高度な文化がヨーロッパ・日本に与えた影響を理解する				
2学期	・一体化に向かう世界 大航海時代と新たな国家の形成 ・欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命、 2部 地球社会と日本 ・現代世界の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦がもたらしたもの～民族自決を求めて			・ヨーロッパ中世から主権国家体制への過程を通し、人々の生活・価値観の変遷を理解する。 ・現代につながる問題の背景を理解する。 ・第一次世界大戦とその後の民族の動きを通して、国際関係の変遷と、日本の役割について学ぶ。				
3学期	・現代世界の芽生えと世界大戦 経済危機から第二次世界大戦へ ・冷戦から地球社会へ 冷たい戦争の時代 冷戦終結への道のり 地球社会への歩み 持続可能な社会をめざして			・第二次世界大戦についての学習を通じて、国際関係の変遷と現代社会における日本の役割について考える。 ・冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について関心をもてる。 ・共に生きる社会・持続可能な社会について考察することで、その構築に向けての方策を追求する力を身につける。				
学 習 上 の 留 意 点	・忘れ物することなく、説明をしっかりと聞き、板書もきちんととってください。 ・日々の授業を大切に、知らなかったことを知る楽しみを学びとってください。 ・教科書をはじめ、文章を正確に読む力を身につけていきましょう。 ・提出物を期日を守って出す努力をしてください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	数学・数学Ⅱ		単位数	2	単位	履修学年	2	年
目 標	・ 整式の割り算、分数式、複素数および2次方程式の基本的な計算ができる。 ・ 様々な公式を利用することができる。 ・ 因数定理を利用し、高次方程式を解くことができる。 ・ 方程式を用いて、図形を表現することができる。							
使 用 教 材	【教科書】改訂版 最新 数学Ⅱ（数研出版） 【副教材】書き込み式シリーズ Study-Up ノート 数学Ⅱ（数研出版） 自主教材（プリント）							
評価の観点 ・ 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解			
	数学的活動を通して、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、及びいろいろな関数の考え方や体系に関心をもつと共に、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、及びいろいろな関数における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えると共に思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、及びいろいろな関数の考えにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決できる。		式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、及びいろいろな関数の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し基礎的な知識を身につけている。			
評 価 方 法	「関心、意欲、態度」については、授業に取り組む態度や発表などによる評価と、提出物などの内容を総合的に判断し評価する。「数学的な見方や考え方」、「表現・処理」、「知識、理解」については、定期考査や基礎力診断テスト、日常の授業の取り組みなどを総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	式と証明、複素数と方程式 ・ 整式の割り算 ・ 分数式の計算 ・ 恒等式 ・ 等式の証明 ・ 複素数 ・ 2次方程式の解と判別式 ・ 解と係数の関係			・ 整式の割り算は、高次方程式を学ぶ際にも用いる重要な内容のため、確実に計算できるように学習していく。分数式では因数分解を復習しながら乗法、除法、加法、減法を計算できるように学習する。 ・ 数の範囲を拡張するために新しい数「i」を導入し、2次方程式の解が常に存在することを理解する。				
2 学期	・ 剰余の定理と因数定理 ・ 高次方程式 図形と方程式 ・ 直線上の点 ・ 平面上の点 ・ 直線の方程式 ・ 2直線の平行と垂直			・ 因数定理について学習し、それを用いることで高次方程式を解くことができることを理解する。 ・ 座標を用いて図形の性質を調べる学習することを大きなねらいとしている。これにより、平面図形と式を同時に扱うことができるようにする。				
3 学期	・ 円、軌跡と領域			・ 円の方程式、不等式の表す領域などの図形的な意味を理解し、計算できるように学習する。				
学 習 上 の 留 意 点	・ 予習と復習をしっかりし、日々の授業を大切にすること。 ・ 与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出すること。 ・ 分からないところは、そのままにせず、必ず質問すること。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	数学・数学A		単位数	2	単位	履修学年	2	年
目 標	・ 順列、組合せ等の考え方をを用いて、様々な場合の数を求めることができる。 ・ 整数の性質を用いて、計算ができる。 ・ 様々な確率の問題を解くことができる。 ・ 平面図形に関する定理を適切に用い、問題を解くことができる。							
使 用 教 材	【教科書】改訂版 最新数学A (数研出版) 【副教材】書き込み式シリーズ Study-Upノート (数研出版)、自主教材 (プリント)							
評価の観点 ・ 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解			
	数学的活動を通して、集合と場合の数、確率や平面図形及び整数における考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、集合と場合の数、確率や平面図形及び整数における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	集合と場合の数、確率と平面図形及び整数において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。		集合と場合の数、確率と平面図形及び整数における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。			
評 価 方 法	「関心、意欲、態度」については、授業に取り組む態度や発表などによる評価と、提出物などの内容を総合的に判断し評価する。「数学的な見方や考え方」、「表現・処理」、「知識、理解」については、定期考査や基礎力診断テスト、日常の授業の取り組みなどを総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	集合と場合の数 ・ 集合 ・ 順列 ・ 組み合わせ 確率 ・ 確率とその基本性質 ・ 独立な試行と確率 ・ 反復試行の確率 ・ 条件付き確率		・ 集合について基本の事柄や用語・記号を学習する。 ・ 基本的な個数の処理の考え方について学習する。数え上げの方法と原則について学ぶことによって「もれなく、重複することなく数え上げる」方法について理解する。 ・ 具体例を通して確率の意味を理解し、身近な試行や事象の確率を求めることができるようにする。そして、試行の独立をもとにし、反復試行などの確率も学習する。					
2 学期	平面図形 ・ 三角形の辺の比及び外心・内心・重心 ・ 円に関する図形の定理 整数の性質 ・ 約数と倍数 ・ 最大公約数と最小公倍数		・ 平面図形に関する様々な定理を学習し、幾何における論理性や証明のおもしろさを体得する。 ・ 整数の性質について理解する。					
3 学期	・ ユークリッド互除法 ・ 1 次不定方程式 ・ n 進法		・ ユークリッド互除法を用いた最大公約数の求め方や、1 次不定方程式について学習する。 ・ 位取り記数法を用いて、10進数を2進数で表すことができるようにする。					
学 習 上 の 留 意 点	・ 予習・復習をしっかりし、日々の授業を大切にすること。 ・ 与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出すること。 ・ 分からないところは、そのままにせず、必ず質問すること。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・生物基礎		単位数	2	単位	履修学年	2	年
目 標	1. 生物や生命の多様性について学習し、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 遺伝子、健康、環境など私たちの生活に身近な内容を学習することで、生物や生命に対する興味・関心を高める。 3. 生物や生命現象の中から課題を見出し、観察、実験を通して探究する姿勢を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】新編 生物基礎 (東書)							
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能		知識・理解			
	生物・生命などに興味を持ち、構造やはたらきに関心を持つことができる。また学習内容が自分の体や生活・社会に関わる身近な問題であると理解し、新聞やテレビ報道の内容に関心を持つことができる。	生物が共通に持つ体の特徴や働き、また生物をとりまく環境について理解し、知識を増やし、説明することができる。また学習した内容について考察し、自らの考えを的確に表現することができる。	さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。		生物のからだの特徴・遺伝子やDNA・生物の体内環境の維持・生態系について、その基本的な働きやしくみを理解することができる。学習内容のヒトとのかかわりや具体例について知る。			
評 価 方 法	生物に対する「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」については、探究心を持ち意欲的に取り組めたかどうかなど、日々の授業態度などから評価します。「知識・理解」については、実験や観察を通して、自然の事物や現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを提出物の状況や5回の定期考査等から総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	1 編 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生命活動とエネルギー			・生物は多様でありながら共通性があることを知り、細胞について学ぶ ・生命活動に必要なエネルギーは、呼吸や光合成から得ていることを理解し、細胞のはたらきについて学ぶ				
2 学期	2 編 遺伝子とそのはたらき 1. 生物と遺伝子 2. 遺伝情報の分配 3. 遺伝情報とタンパク質の合成			・DNAについて学ぶ ・細胞分裂時の遺伝子の配分について学ぶ ・体内でどのようにタンパク質が合成されているか学ぶ				
3 学期	3 編 生物の体内環境の維持 1. 体内環境の維持 2. 体内環境を保つしくみ 3. 体内環境を守るしくみ			・心臓、肝臓、腎臓のはたらきによる体内環境の維持について学ぶ ・自律神経やホルモンの調節作用は、体内環境が維持されることにより保たれることを理解し、脳との関連について学ぶ ・病原体の侵入を防ぐために、細胞が異物を認識し、排除する仕組みについて学。				
	4 編 生物の多様性と生態系 1. 植生の多様性と遷移 2. バイオームとその分布 3. 生態とその保全			・生態系における植物の役割について学ぶ ・地球規模での植物の分布について学ぶ ・エネルギーと物質の循環、自然界のバランスについて学ぶ				
学 習 上 の 留 意 点	・積極的に授業に取り組む態度を養い、ノートは毎時ごとにしっかりと整理してください。 ・課題やノート提出の期限に遅れないようにしてください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・化学基礎		単位数	2 単位	履修学年	2 年
目 標	1. 「化学」は、物質を調べ、つくり出し、利用するための基礎となる学問であること、さらに化学が人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。 3. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解するとともに日常生活や社会と関連付けて考えることができるようになる。 4. 上記1～3の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。					
使 用 教 材	【教科書】新編 化学基礎 (東書)					
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解		
	物質の性質に関心を持ち、原子の構造や化学的性質について学習し、それらの知識を活かして、状態変化・反応式やイオンの生成・量的関係・酸と塩基・酸化と還元について意欲的に探究しようとする。	物質の構造・状態・化学結合と物質の性質等について学習し、学習内容と具体的物質や社会との関連を見いだし総合的に考察し、それらを必要に応じて活用し、的確に表現できる。	さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験の技能を習得する。さらに物質と人間生活、化学とその役割に関して科学的に探究する方法を身に付ける。	物質の探究をするために物質の構造・状態・化学結合など化学的な基礎知識を身に付ける。さらに観察・実験などを通して「物質」を理解する基本的な概念・原理・法則を身に付ける。		
評 価 方 法	化学に対する「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」については、探究心を持ち意欲的に取り組めたかどうかなど、日々の授業態度などから評価します。「知識・理解」については、実験や観察を通して、物質と人間生活、化学とその役割について基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを提出物の状況や5回の定期考査等から総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	序編 化学と人間生活		・ 人類がどのように「物質」を探究し利用してきたか、また人類は「物質」とどのように関わっているのか、さらに物質と地球環境について考える。 ・ 物質の分離、精製やその成分を調べる実験、観察を通して、物質の成り立ちについて学ぶ。 ・ 物質を構成する基本粒子について学ぶ。 ・ 身の回りにあるすべての物質が原子、分子、イオンという粒子からなることを理解し、イオン結合や共有結合について学ぶ。 ・ 原子や分子1個は大変小さいので、そのままの数値では扱いにくい。原子・分子を集団として扱う物質量の考え方について学ぶ。 ・ 身近なところで多く利用されている酸と塩基について、中和反応やその量的関係について学ぶ。 ・ 物質の燃焼や、金属の溶解などの化学反応は、電子の移動を伴う酸化還元反応である。酸化還元反応を電子の授受に基づいて理解し、電池や電気分解についても学ぶ。			
2 学期	1 編 物質の構成 1 章 物質の成分と構成元素 2 章 原子の構造と元素の周期表					
	3 章 化学結合					
3 学期	2 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式					
	2 章 酸と塩基 3 章 酸化還元反応					
学 習 上 の 留 意 点	・ 積極的に授業に取り組む態度を養い、ノートは毎時ごとにしっかりと整理してください。 ・ 課題やノート提出の期限に遅れないようにしてください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・物理基礎		単位数	2	単位	履修年次	2	年次
目 標	工業系科目の土台として、日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動とさまざまなエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 ・物理学と日常生活や社会との関連についての重要性に気づき、物体の運動など、身近な物理現象やエネルギーへの関心を高める。 ・物理学的に探究する能力と態度を育成し、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・身近な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見出す能力と態度を身につける。 ・身近に見られる物理現象の背後に原理・法則が存在することを理解し、それらを日常生活や社会の中で活用する能力と態度を身につける。							
使用教材	【教科書】改訂版 新編 新物理基礎（数研出版）							
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解				
	・物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的な態度を身につけている。	・物理的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断することができる。	・物理的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、方法や過程や結果を的確に表現することができる。	・観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。				
評価方法	「関心・意欲・態度」「観察・実験の技能」については日々の授業態度や観察、実験などの取り組み・提出物の状況を中心に、「思考・判断・表現」「知識・理解」については、基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを5回の定期考査やノート・提出物等を中心に、それぞれ総合的に評価します。							
学 期	学習内容			学習のねらい				
1 学 期	○力と運動 1. 物体の運動 速さと速度／ 速度の合成・分解と相対速度／ 加速度と等加速度運動／ 2. 落下運動 落下運動／ 放物運動 3. 力のつり合い 力／ 力の合成・分解と力のつり合い 4. 運動の法則 運動の3法則／ 抵抗力を受ける運動 ○エネルギー 1. 力学的エネルギー 力がする仕事／ 運動エネルギーと位置エネルギー／ 力学的エネルギー保存の法則			・物理学が拓く世界について知る。 ・速度、加速度といった運動を表現する諸量の定義を理解し、運動を表現、分析できるようになる。 ・落下運動などの日常に起こる物体の運動を通して、運動状態と力の関係を知る。 ・力についての理解を深め、合成・分解の手法を用いて、運動の解析に適用できる。 ・運動の3法則を理解し、運動方程式を用いて、運動の諸量や力を求めることができる。 ・力学的エネルギー、仕事、仕事率といった諸量の定義を理解し、エネルギーと仕事の関係を理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則が成り立つ状況を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。				

2 学 期	2. 熱とエネルギー 熱と温度／ 熱容量と比熱／ 物体の熱膨張／ エネルギーの変換と保存／ 不可逆変化と熱力学第二法則／ 気体の圧力 ○波動 1. 波の性質 波とその要素／ 横波と縦波／ 波の強さ／波の重ね合わせ／ 波の反射 2. 音波 音波の性質／ 弦の振動／ 気柱の振動	・温度や熱に関わる諸量の定義を理解し、熱現象の法則性について知る。 ・内部エネルギーと熱力学第1法則について理解する。 ・波の要素や波特有の現象について理解し、縦波と横波を、日常の現象にあてはめて説明できる。 ・波動現象に共通する性質と法則性について理解し、応用できる能力をつける。 ・音に関する諸現象を知り、法則化し、応用できる能力をつける。 ・気柱や弦の振動の規則性を用いて、波の諸量を計算できる。
3 学 期	○電気 1. 静電気と電流 静電気／ 電流と抵抗／ 電気エネルギー 2. 電流と磁場 磁場／ モーターと発電機／ 交流と電磁波 3. エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料／ 原子力エネルギー	・電荷や帯電、電流といった電気現象を、原子の構造を通して理解する。 ・電流や電気エネルギーにかかわる基本法則や回路の基礎を理解し、諸量を計算できる。 ・電場や磁場の定義や電磁誘導の現象について理解し、交流の発生とモーターや発電機への応用について知る。 ・化石燃料や原子力のエネルギー利用における基礎を理解し、成果と課題を正しく認識する。
学 習 上 の 留 意 点	・教科書を中心にした講義形式で行います。 ・物理を身近に感じ、理解を促すためになるべく多くの演示実験を取り入れます。 ・積極的に授業に取り組む態度、ノートをきちんと整備することが大切です。	

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】保健体育・体育		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高める。 ・自己の状況に応じて、体力の向上を図ることができるようになる。 ・公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】現代高等保健体育 改訂版（大修館） 【副教材】最新スポーツルール(大修館)・現代高等保健体育ノート（大修館）							
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能		知識・理解			
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけていると共に、健康や安全に留意して自ら運動をしようとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己やグループの能力と運動の特性に応じた運動の取り組み方や課題の解決を考え、判断し、それらを表している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うと共に、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。		社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。			
評 価 方 法	授業への取り組み方を「関心・意欲・態度」、学習内容を高めるための工夫を「思考・判断」、運動の実技試験や授業中での技術発揮（運動）の様子を「運動の技能」「知識・理解」として評価をし、それらを総合的に評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	体づくり運動 ・集団行動 ・新体力テスト 体育理論 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方 選択① ・器械体操 ・陸上競技 ・武道 ・ダンス			・規律、規範を守ることや、責任を持った行動など、集団生活の基礎を身につける。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。 ・自己に適した技を高めて、演技することができる能力を身につけます。 ・各種目特有の技能を高める。 ・基本動作から得意技や連絡技・変化技を用いた攻防ができるようにする。 ・楽しさや喜びを味わい、表現や踊りを通して交流できるようにする。				
2 学期	特色種目 ・組体操 選択② ・球技（ハンドボール、卓球、サッカー、テニス、バドミントン） 1年生の選択Bで選択しなかった競技			・筋力や筋持久力を向上させ 集団での行動力や仲間と協力して楽しむ態度を養います。 ・球技では基礎・基本の技術を習得し、仲間と連携・協力して試合を楽しめるようになる。				
3 学期	体育理論 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 特色種目 ・持久走			・生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくために、スポーツへのかかわり方の特徴や条件を理解する。 ・持久走では心肺機能を中心とした基礎体力の向上と、個人目標を設定し達成感を味わう。				
学 習 上 の 留 意 点	・体操服等の準備を忘れずにしてください（見学時も基本的には同様です）。 ・活動場所（体育館、グラウンド、武道場等）への集合を、時間厳守で行ってください。 ・授業を見学するときは、必ず事前に担当教員に申し出てください。（理由等） ・授業時の怪我防止（安全確保）のため、授業でのルールと指示をきちんと守るようにしてください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】保健体育・保健		単位数	1	単位	履修年次	2	年
目 標	・ 個人及び社会生活における健康や安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】 現代高等保健体育 改訂版（大修館） 【副教材】 現代高等保健体育ノート（大修館）							
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能		知識・理解			
	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	個人生活や社会生活における健康や安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。			個人生活及び社会生活における健康や安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。			
評 価 方 法	学習状況（授業態度・参加意識）等で、「関心・意欲・態度」と「思考・判断」を、定期考査や提出物（ノートやプリント）等で「知識・理解」を評価し、それらを総合的に評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	生涯を通じる健康 ①生涯の各段階における健康 ・ 思春期と健康 ・ 結婚生活と健康 ・ 加齢と健康			・ 生涯の各段階においては、健康問題にかかわる様々な課題があり、それに対応して個人や社会に求められる能力や機能なども異なっています。生涯にわたって健康に生きていくため、生涯の各段階と健康とのかかわり理解し、生涯を通じて健康に生きていく力を身につける。				
2 学期	②保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ・ 我が国の保健・医療制度 ・ 地域の保健・医療機関の活用 ③様々な保健活動や対策 社会生活と健康 ①環境と健康 ・ 環境の汚染と健康 ・ 環境と健康にかかわる対策			・ 保健制度や医療制度のしくみや活用のしかたを学び、生涯を通じて健康を保持増進することができる力を身につけます。 ・ 社会生活における健康の保持増進には、個人の力だけではなく、個人を取り巻く自然環境や社会の制度や活動などが深く関わっています。このため、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について学び、生涯を通じて健康に過ごすことができる環境を作ることができる力を身につけます。				
3 学期	②環境と食品の保健 ・ 環境保健にかかわる活動 ・ 食品保健にかかわる活動 ・ 健康の保持増進のための環境と食品の保健 ③労働と健康 ・ 労働災害と健康 ・ 働く人の健康の保持増進							
学 習 上 の 留 意 点	・ 教科書、図説を、忘れずに準備してください。 ・ 授業に積極的に参加し、ノートをしっかりと整理しましょう。（ノートは提出してもらいます）							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】外国語・コミュニケーション英語 I		単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	・相手が伝えようとすることを理解し、自分が伝えたいことを表現できるようになる。 ・主体的に言語活動を行うことの喜びを体験し、異文化理解に努める。			
使 用 教 材	【教科書】 Revised COMET English Communication I （数研出版） 【副教材】 マトレ(ベネッセ)、マスターノート(増進堂)、Listening Box Pre & I (啓林館)、自主教材			
評価の観点・評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したがりして表現することができる。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できる。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。
評 価 方 法	・積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしているか（関心・意欲・態度） ・英語を用いて自分の伝えたいことを表現できるか（表現の能力） ・英語を用いて相手が伝えようとすることを理解できるか（理解の能力） ・背景にある文化等を理解しているか（知識・理解） 以上4つの観点を、普段の授業・提出物、定期考査、各種テスト等で確認し総合的に評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	Lesson1 Why Do You Study English? Lesson2 Washoku：Our traditional Food		・日常生活の身近な話題について基礎的な会話表現に慣れ、自分のことを伝え相手のことが理解できるよう学習します。 ・文法事項の整理を通して身近な話題についてよりスムーズなコミュニケーションが取れるように学習します。	
2 学期	Lesson3 What should I Do? Lesson4 My School, Your School		・日常生活の身近な話題について基礎的な会話表現に慣れ、自分のことを伝え相手のことが理解できるよう学習します。 ・文法事項の整理を通して身近な話題についてよりスムーズなコミュニケーションが取れるように学習します。	
3 学期	Lesson5 Peace, the Polar Bear Reading 1 Let’s Try Riddles!		・日常生活の身近な話題について、相手に正しく情報を伝えられる、相手からの情報を正しく理解できるよう学習します。 ・文法事項の整理を通して身近な話題についてよりスムーズなコミュニケーションが取れるように学習します。	
学 習 上 の 留 意 点	相手が伝えようとしていることを理解し、自分の伝えたいことを伝えられるという喜びを体験できるように学習します。積極的なコミュニケーション活動への参加が必須です。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・家庭総合		単 位 数	2 単位	履 修 年 次	2 年
目 標	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の定義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 ・生活課題を解決するために必要な知識と技術と習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。					
使 用 教 材	【教科書】 新 家庭総合 パートナースhipでつくる未来（実教出版）					
評価の観点・評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解		
	子ども・消費・経済などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きていくうえの知識・技術を習得し、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。	学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をレポート等でまとめることができる。	自立するために必要な調理技術等を身につけている。	人が生きていくうえで必要な「生活」にかかわる基本的知識を身につけ、理解している。		
評価方法	目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」については、定期考査やレポートを中心に総合的に評価を行います。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	○食生活をつくる ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 等		・食事調査を通して、各自の食生活の問題点について考える。 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を習得する。 ・調理に関しての基礎的な技術を身につけ、食事のマナーを知り、楽しく食事ができるようにする。			
2 学期	○ホームプロジェクト ○社会とかかわる ・支え合う暮らしとは ・私たちの社会福祉 等		・自分の身のまわりの生活課題を見つけ、解決に向けて実践することができる。 ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・地域に根ざした社会福祉の重要性を理解する。			
3 学期	○消費行動を考える ・消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任 等 ○経済的に自立する ・経済の仕組みを知る ・ライフステージと経済計画 等		・契約、多様な販売方法や支払い方法、被害に遭った場合の解決方法について理解する。 ・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。 ・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。			
指導上の留意点	調理実習は、衛生面での自覚を持ち、頭髮や服装など身だしなみを整えて授業に臨んでください。					

— 12 —

